

101号
No.1101

2013(平成25)年
4月1日

むゆいけ

おがんも
 リがんも
 おたがいに
 くらべっこも
 競争もしないけれど
 それぞれに
 日ちいつはいに
 じぶんの
 心を咲かせ
 じぶんの家を
 みつを

相田みつを美術館
オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30
浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666
FAX(072)692-0769



春季ほぼの法話

倶会一処

みなさん「倶会一処」という言葉、どこかで見た事ありませんか？

そう、みなさんお墓参りをされたら墓石に掘られてあるのをよくみますね。春の法話はこの仏教語であります「倶会一処」を浄土真宗のみ教えを通してわかりやすくお答えいたします。」

仏説阿弥陀経のなかに「倶会一処」という言葉があります。大谷墓地のお墓参りの際にも正面に「倶会一処」と彫られた墓石を見たことがありだと思えますが、この言葉は、ともにひとつのところでお会いしましょうという意味です。ともに会えるところは、阿弥陀如来さまのつくられたさとりの世界、お浄土という世界です。

大変悲しいことですが、私たちはこの世に生まれてきた限りは、

愛しい人、大切な人達と必ず別れていかなくはなりません。誰一人として例外はありません。そして、その悲しい別れは、何の前ぶれもなく起こる場合も度々ありま^{たひた}す。突然の別れは、さびしくて、とてもつらいものです。

でも、私たちには、必ずまた会える世界があります。それがお浄土です。人生を歩んでいくなかで、様々な悲しい別れを経験しなくてはならない私たちであります。また必ず会える世界があるからこそ、今を頑張ることができのです。また会えると思えるから、さびしさも少しは和らぐことができるのです。

そのお浄土への道は、いのち終わるときにはじまるではありません。今、阿弥陀如来さまの「必ず救う、われにまかせよ」というよび声が南無阿弥陀仏のお念仏となってはたらいいてくださることに気

づかせていただくその時に、私のこの人生は、お浄土へと向かう確かなものとなります。

「倶会一処」、必ずお浄土で会える人生を間違いなく歩ませていただきますしよう。

毎日新聞の投書欄に、中年女性のこんな話が載っていました。

「お盆でお寺へ行き、法要も終わって帰ろうとしたとき、初めて見たおばあさんが『また会いましょうね』と声をかけて見送ってくれた。初対面の人でもこういう挨拶の仕方があるんだ。年齢を重ねてきた人は何ていい表現をするんだろう。むせかえるような暑い日だったが、心の中をさわやかな風が吹き抜けた」と。いい話ですね。





3月11日
東日本大震災三回忌法要



萬徳寺仏教壮年会
御正忌報恩講参拝記念
平成25年1月14日

永代経法座のご案内

◎四月十三日(土)

午後二時(仏説無量寿経)

午後七時(仏説阿弥陀経)

◎四月十四日(日)

午後二時(仏説無量寿経)

〈法話〉

本願寺布教使

清岡隆文 師

龍谷大学文学部実践真宗学科教授

吹田市岸部、大光寺住職

平成23年、報恩講法座以来のご法縁です。

★年行司(仏壯、総代)の方々により

ますお志の受付は、午後一時十五

分(一日目)よりしていただきます

す。お参りの方々は宜しくお願

致します。

人生講座のご案内

◎六月三十日(日)

午後二時より

場所 萬徳寺 本堂

講師 ハーモニカ演奏

木谷悦子 先生

★第七回人生講座にご来演いただいでいます。すばらしいハーモニカ演奏を聞かせて下さいませ。どうぞ気楽に萬徳寺までお越し下さい。

花祭り

◎四月八日(月)

場所 萬徳寺

★お子様と一緒にご家族の皆様も是非お参り下さい

一日に一度、ご仏壇にお参りいたしましょう

大きなお声でお念仏いたしましょう

仏事ごとには、門徒式章を懸けるよう心がけましょう

住職の ひとり言



◆春はまだまだ遠い、今年も三月十一日を迎えました。東日本大震災から早二年の月日が経ちました。被災された方々は、父、母、わが子、お家族を亡くされ、今も耐え難い悲しみ、苦しみを抱えて、亡き方と共に生きておられます。復興は遠く、津波の爪痕である荒涼たる大地を見ますと涙とお念仏が溢れます。

◆三月十一日は、大地震の犠牲者二五、八八一名、そして今なお行方不明者二、六六八名(まだこれだけ大勢の方々がおられます)の方々の「東日本大震災三回忌」にあたります。萬徳寺でも仏教婦人会常例法座のお座として「三回忌法要」を勤めました。私たちは、被災された方々の苦しみや悲しみに寄り添い、お念仏申す人生を歩ませていただくことを改めて決意させていただきましょう。ナンマンダブ。ナンマンダブ。

個人情報により非表示にさせていただきます。

個人情報により非表示にさせていただきます。

実に多くの方々がお浄土に還られました。ご家族のお悲しみはいかばかりかと存じます。どうかこの尊いご縁に仏縁をより深められ、阿弥陀如来の願い(本願。かならずかならずあなたを救うぞ)に遇つて下さいませ。お念仏申しましょう。

今日の一日

「おかげさま」

「ありがとう」と寝床につく。

その幸せに 気づかねばならない。

お念仏の心(感謝の心)を若い時から
お育て下さい。

